

予算額

8,092,705 円

地域課題解決に向けた取組

1	取組の名称	希望と友情のサッカー体験会(初心者限定)				
	趣旨・目的	市内サッカー愛好者と協働でサッカーイベントを開催することによる地域交流の活性化と異世代の「学びの場」を作ることとする。 日本サッカー協会キッズプログラムが確立されているので、参加児童すべてが楽しめる内容。参加者児童全員のコミュニケーションゲーム後、サッカー初心者の児童が安心して楽しめる場を提供する。				
	内容	サッカー未体験小学生のための体験会				
	対象者	廿日市市内の小学生	参加人数	68名	実施回数	3回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の配布物として体験会の申込書を配った。 ・ 日頃子ども達を指導していない人にもメインコーチを体験してもらった。 ・ 初心者対象の体験会を周知し、初心者が集まりやすい工夫をした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ サッカー初心者児童と指導初心者愛好家の学びの場となった。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初心者に限定したので参加者数が少なかった。今後多くの初心者児童が参加できる対策を取りたい。 				

2	取組の名称	希望と友情の親子テニス体験会				
	趣旨・目的	市内テニス指導者や愛好者と協働でテニスイベントを開催することによる地域交流の活性化と異世代の「学びの場」を作ることとする。				
	内容	テニス体験会 親子で参加を原則として、以下の2コースを提供する。 ①小学生コース(初心者低学年クラスと高学年クラス) ②保護者コース(初心者クラスと中級者クラス)				
	対象者	廿日市市内の小学生および保護者	参加人数	93名	実施回数	2回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の配布物として体験会の申込書を配った。 ・ 日頃子ども達を指導していない人にもメインコーチを体験してもらった。 ・ 初心者対象の体験会を周知し、初心者が集まりやすい工夫をした。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ レベルによるクラス分けが成功し、全ての参加者が満足した。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の掘り起こしと内容のレベルアップ 					

3	取組の名称	希望と友情のバドミントン体験会				
	趣旨・目的	市内の総合型地域スポーツクラブが唯一共有するバドミントン競技で地域交流の活性化と異世代の「学びの場」を作ること趣旨とする。				
	内容	バドミントン体験会 (午前) 参加児すべてが楽しめる内容。参加児童全員のコミュニケーションゲーム後、児童のニーズに合わせて、以下の2コースを提供する。 ①はじめてコース(初心者対象、低学年向き) ②やったことあるよコース(高学年向き) (午後) 地域スポーツクラブ対抗交流大会				
	対象者	廿日市市内の小学生	参加人数	95名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の配布物として体験会の申込書を配った。 ・ 日頃子ども達を指導していない人にもメインコーチを体験してもらった。 ・ 初心者対象の体験会を周知し、初心者が集まりやすい工夫をした。 				
	成果	・ 子ども達の心に「スポーツに垣根はない」ことが実感できた。				
	課題	・ バドミントン指導者を中心にしたスポーツネットワーク組織構築。				

4	取組の名称	希望と友情のグラウンドゴルフ体験会				
	趣旨・目的	運動強度も適切なグラウンドゴルフで異世代交流することを趣旨とする。				
	内容	グラウンドゴルフ熟練者の指導による体験会				
	対象者	廿日市市内の未就学児と小学1・2年生	参加人数	94名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の配布物として体験会の申込書を配った。 ・ 日頃子ども達を指導していない人にもメインコーチを体験してもらった。 ・ 初心者対象の体験会を周知し、初心者が集まりやすい工夫をした。 				
	成果	・ 年配の熟練者と子ども達の交流と学びの機会になった。				
課題	・ 市民全体を巻き込むための戦略					

5	取組の名称	希望と友情のキッズスポーツ体験会				
	趣旨・目的	未就学児と低学年の児童に日本サッカー協会キッズプログラムや様々なスポーツを実践し、身近なスポーツ体験と学びの場を作ること趣旨とする。				
	内容	(午前)未就学幼児に、動き作り・ボール遊び・リズム体操を体験させる。 (午後)小1, 2年生に、動き作り・ボール遊び・リズム体操を体験させる。				
	対象者	廿日市市内の未就学児と小学1, 2年生	参加人数	94名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の配布物として体験会の申込書を配った。 ・ 日頃子ども達を指導していない人にもメインコーチを体験してもらった。 ・ 初心者対象の体験会を周知し、初心者が集まりやすい工夫をした。 				
	成果	・ 4つのスポーツが体験できて満足度が高かった。				
課題	・ 定期的な開催のための指導者と会場の確保					

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	5 校
---------	-----

コーディネーター総数	5 名
------------	-----

◆効果を高めるための工夫や取組など

- ・ 体育の授業充実のためには、先生とのコミュニケーションが一番大切なので、サポート方法について意見の言い合える雰囲気作りを工夫した。
- ・ 子ども達とのコミュニケーションを高める取組みとして、休憩時間にグラウンドで遊ぶ取組みと給食を各クラスに巡回して食べる取組みを行った。
- ・ コーディネーター5人が同じクラブのサッカーコーチである利点を生かして、子ども達の置かれている状況の共有やスポーツに興味を持ってもらうための取組みを毎週火曜日に話し合った。
- ・ コーディネーター5人は体育の授業補助がない時間は、グラウンド整備や体育館・倉庫の片付け、体育補助用品の制作を行い、小学校のスポーツ環境改善に取り組んだ。

◆成果と課題

〔成果〕

- ・ 小学校とのコミュニケーションのため、給食時間に各教室を巡回して子ども達と一緒に食べ、その後の昼休憩も一緒に外遊びを積極的に行い、各学校からも感謝されています。各小学校や教育委員会との連携も問題ない。
- ・ コーディネーターが体育の授業をサポートすることにより、児童のスポーツに対する意欲が向上したとの声を多くいただいた。

〔課題〕

- ・ 児童のスポーツ意欲の高まりを数値化して報告することが必要。
- ・ 学習指導要領に基づく指導を基本ベースに、小学生の運動能力とコミュニケーション能力に関する独自のプログラムをプロジェクトリーダーを中心に体育コーディネーターと共同で開発して小学校と共有することが必要。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ 廿日市市内の小学校と地域クラブの連携が、児童のスポーツに対する意欲向上や地域の課題解決（地域の指導者連携、スポーツコミュニティ形成）に成果があった。

〔課題〕

- ・ 地域の拠点クラブの存在意義を広報することが課題。
- ・ トップスポーツ巡回指導への積極的な取組が課題。
- ・ 既存のチームやサークルの地域クラブ化をサポートすることが課題。